



# 五箇荘中だより

NO. 12

令和8年3月24日  
堺市立五箇荘中学校  
校長 中辻 幸男

## 第48回卒業証書授与式

校長 中辻 幸男

3月13日に第48回卒業証書授与式が挙行され卒業生が本校を巣立っていきました。卒業式の式辞の一部を紹介します。

鳥の王様といわれる鷲は、敵に襲われるのを防ぐために断崖絶壁の岩場などに巣を作ります。鷲が最初にするのは、トゲのある野イチゴや野ばらの枝で巣の形をつくることです。鷲はくちばしを血だらけにしてトゲの枝を巻きながら巣の形に固定します。それが終わると今度はその上に枯葉を敷き詰めます。さらにその上に自分の羽毛を抜いて重ねます。そして最後にのどの近くに生えている柔らかい毛を抜いて敷き詰めると、ようやく卵を産むのです。鷲の子育てで注目したいのは、生まれた雛の成長に合わせて、親鳥は敷き詰めていた柔らかい毛、羽毛、枯葉、の順に羽ばたきで散らし、だんだんトゲの巣に戻っていきます。親鳥は雛の成長を見守りながら、守ってやらなくても自分で飛ぶ力、えさを探す力をついたと思える日を待っているのです。雛は、トゲの枝になった巣には長くとどまってはられません。えさを与えてももらえなくなるのでお腹もすいてきます。足の痛みと空腹に我慢ができなくなった雛たちは、勇気を振り絞って高い断崖絶壁から自分の力で大空に飛び出していくのです。これが鷲の巣立ちです。皆さんは今日義務教育を終えて巣立っていきます。親の温かい、時には厳しい愛情を受けて巣立っていきます。

また卒業後のこれからの人生は、やりなおしのきかない片道切符の列車に乗っているようなものです。その人生に必要なパスポートとして「挨拶」を身に付けてください。

挨拶するということは、そこに相手がいる、その人を認めている、という意思表示をするものです。相手の存在を認め、敬意を示し、大切に扱う。その積み重ねが「よい関係を築きたい」というメッセージになります。「おはようございます」「よろしくお願いします」「お先に失礼します」こうした日々のあいさつを積み重ねることが、人間関係の基礎となり、信頼を築いていくのです。いきなり本題に入るよりは、まずはあいさつを交わすことで自然に会話の流れが生まれ、話がスムーズにつながっていきます。挨拶は魔法の言葉なのです。

挨拶は、その場の雰囲気にもつながります。だれかが小さい声でぼそぼそと「おはようございます」といえば、その場の空気も沈みがちになります。反対に、明るく元気な声で「おはようございます」とあいさつをする人がいれば、その前向きなエネルギーが周囲に広がります。たった一言のあいさつで場の雰囲気が左右されるわけです。

このような「挨拶」というパスポートをもってこれからの人生を前向きに進んでください。

## これからの教育活動について

学習指導要領(どの教科をどのように学ぶかを決めた授業の設計図のようなもの)は、2030年に新たなものが示される予定です。それにむけて文部科学省は、生成AIの活用や生徒や教員の負担を減らすための教育内容の精選、教育課程の柔軟な編成などを議論しています。また、ネットやいじめに関する問題、不登校生徒への対応、教員の不足など教育課題なども報告されています。本校では、これらの教育を取り巻く状況の中、生徒の学力の向上や令和9年度から変わる大阪府公立高等学校入学者選抜への対応等にむけて、令和8年度より新たな取り組みを行います。具体的な内容については4月にお知らせします。

## 行事予定

- 4月 2日(木) 入学式準備(午後)
- 3日(金) 入学式
- 8日(水) 着任式、始業式、対面式
- 9日(木) 午前中授業
- 10日(金) 午前中授業
- 13日(月) 6限授業、給食開始
- 15日(水) スポーツ用品販売
- 20日(月)から23日(木)家庭訪問期間 ※4月に詳しいお知らせを配布します
- 23日(木) 3年全国学力・学習状況調査
- 24日(金) 授業参観、PTA総会、学年懇談会、PTA実行委員会

## 令和8年度前期生徒会役員

- 会長 ○○ 副会長 ○○
- 執行委員 ○○ ○○
- 執行委員 ○○ ○○ 五箇荘中学校のためによろしくお願いします

## チャレンジテスト分析

1月に実施されたチャレンジテストについて校内での分析をまとめました。

○1年生

### 英語

全体としては大阪府の平均を上回った。しかし、20~24点の層が府平均より多く、50~54点および65~69点の中間層が比較的少ない。一方で、95~100点の上位層が最も多いことから、学習の定着に二極化傾向が見られる。分野別では、「書くこと」における短答式問題、指示された質問内容や用件に応じて空欄を適切に埋める設問の正答率が低かった。既習内容である文法や連語をどの場面で使うのかを判断する力が十分に身につけていないことが考えられる。今後は、様々なパターンで表現を練習し、授業で学習した内容を確実に定着させることに取り組みたい。

## 数学

本校の平均点は、大阪府の平均を上回った。60点以上の割合も高く、どの領域においても、大阪府の平均を上回っており、無解答率も低い。しかし、記述式の問題については、無解答率が高くなっている。この結果をふまえて、基礎・基本の定着だけではなく、記述式の問題にも対応していけるよう、授業のまとめや自分の意見や考えを記述し、発表する場を多く設定していきたい。

## 国語

本校の平均点は大阪府の平均を上回った。それは記号形式の問題の無解答率が低く、漢字の読みや文法の問題での正答率が8割近いものが多数あったことからである。一方、文章を要約してまとめること、資料から報告分を書くことなどの「書くこと」の分野での課題がみられる。このことから「書くこと」への苦手意識をもった生徒が多いということが予想される。今後は自身の意見をまとめることや資料からわかることをまとめる、文章の要約といった「書くこと」の経験を多く積ませたい。

○2年生

## 国語

本校の平均点は府平均をやや下回っており、「65～69点」の割合が最も高く、「80～84点」の割合も次いで多い。しかし、30点・40点台にも一定数みられる。各問題形式での無答率の割合はほとんどないが、記述式の設定は無答率の割合が高くなっている。

「書くこと」に苦手意識のある生徒が多い傾向にあることが読み取れるため、日々の授業の中で自分の意見を書いて表現することを重点的に取り組んでいきたい。また、知識問題にあたる文法に課題がみられるので、定期的に復習する機会を設けたい。

## 数学

「90～94点」の割合が最も多く、70点以上の層も一定数存在する一方で、10点台～20点台前半にもそれぞれ塊があり、平均点付近に生徒が固まっているのではなく、高い得点層と低い得点層に分かれる二極化の傾向が見られた。

昨年度同様、無解答率が府平均と比べて各問題で高く、特に記述式問題などに答えられない生徒が一定数いることが推測されるので、中間層の底上げのためにグラフの読み取りや基本的な記述の書き方を強化し、無解答率を下げることに取り組むとともに、計算や用語の定義といった「知識・技能」の再確認を行うなど、習熟度に応じた指導を行い、基礎学力の定着に取り組みたい。

## 英語

本校の平均点は大阪府の平均を上回っており、特に「聞くこと」の領域では、日頃のリスニング学習の成果が表れており、他の領域よりも高い結果となった。一方で、短答式の問題や、長文の概要・要点を読み取る問題では無回答の生徒も多く見られた。こうした状況を踏まえ、授業の中で中・長文の読解に触れる機会を増やし、文章から必要な情報をつかむ力を育てていきたい。また、ペアでの活動やグループでの話し合いの場を増やし、生徒同士が協力しながら、間違いを恐れずに表現できる力を養っていきたい。

## 理科

本校の平均は、大阪府の平均をやや下回っており、短答式や記述式といった形式の問題の無回答率が多い。また、評価の観点的には、どの観点においても、正答率において目立って高いものや低いものがないことが分かったが、「思考・判断・表現」の問題の無回答率が府平均よりもやや高いものが多いため、授業の中で、さらに自身の考えや意見を考える場や交流する時間を設け、「思考・判断・表現」における力を育んでいきたい。また、実験や観察、手順における内容の正答率もやや低い傾向にあるため、実験や観察などを授業で多くしていきたい。

## 社会

本校の平均は、大阪府の平均をやや下回っており、「知識・技能」を問う問題の正答率が低い。また、無回答率は府より高いことから、無回答の生徒が多く見られていることがわかる。無回答が多い問題の趣旨の多くは、「読み取ることができる」「説明することができる」である。しかし、一方で「思考・判断・表現」の観点や記述式の問題の得点率においては、府平均を上回っている。このことから、授業における「考える、考えたことを書く・伝える」活動は、一定の効果が見られていると考えられるが、授業の活動に能動的に取り組めていない生徒がいることも推察される。

今後、授業の活動「考える、考えたことを書く・伝える」に自ら取り組めるように図るとともに、1年・2年次の復習を適切に取り入れ、「知識・技能」の定着を行っていきたい。